

学習指導センターだより

第3号〔令和7年6月19日（木）〕

☎949-6680 南魚沼市六日町 865 南魚沼市民会館2F 南魚沼市学習指導センター

☎:025(773)6702 Fax:025(773)6703 Eメール:mgakusen@minamiuonuma.ed.jp

ホームページ URL: <https://www.minamiuonuma.ed.jp/1570003> 南魚沼市学習指導センターで検索



「学ぶ」は「まねる」ことから

よく言われていることですが、「学ぶ」は「まねる」ことから始まります。古語では「学ぶ」を「まねぶ」と読みます。「まねぶ」は、「まね」に動詞をつくる接尾語「ぶ」がついたものと言われています。つまり「まねぶ」とは「まねる」（模倣する）という意味です。物事を「学ぶ」ためには、まずは模倣が出発点になるということです。

これは、学校での学習でも当てはまります。例えば、漢字や九九の学習は、何度も何度も繰り返してなぞったり、声に出して繰り返して読んだりして、お手本をまねて覚えます。スポーツや楽器の演奏なども同じです。指導者や他の児童生徒の様子を「まねる」ことで学んでいきます。模倣して「学ぶ」ことは、人の生活のあらゆる場面で見られます。「学ぶ」ために模倣することは効果が高い学び方なのです。

また、「まねる」ためには、お手本となる行動を繰り返し行い、自分のものにすることが必要です。一度お手本を見たり聞いたりしただけでは、「まねた」ことにはなりません。実際に何度も何度も繰り返し行うことで「まねる」ことから「学ぶ」ことになるのです。

教師は、子どもたちの「学び」を支える仕事です。しかし、子どもたちに確かな学びを身につけさせるには、教師の授業力を高める努力が必要です。教職の経験の浅い先生は、授業力を高めるために経験豊かな先生方の指導法を「まねる」ことが必要だと思います。そして、「まねる」ことから自らの指導力を高め、授業を通じて、子どもたちに「できる、分かる」喜びを味わわせ、確かな学びにつなげてほしいと思います。

南魚沼市・湯沢町は、若い教職員が多く勤務されています。学校内の諸先輩を「まねる」ことから行い、自らの「学び」に生かしてみたいはいかがでしょうか。

応援訪問対象者向けの夏季休業中の講座は、陶芸づくりと交流会を予定しています。陶芸では、講師の専門的な見方や作成の仕方を実際に作品作りから学びます。自ら体験することを「まねる」ことで「学び」につながればと思います。また、日頃、同年代と仕事の悩みを語る機会はなかなかとれないものです。そこで、研修の中で交流する機会を設定します。2学期以降の授業改善になればと思います。

授業作りワンポイント （学習指導センター作成冊子 授業づくり・学級づくりQ&A より）

○子どもの褒め方や叱り方をどうしたらよいか？

(1) 「叱る」基準を明らかにしておく。

例：・危ない・差別・いじめ・迷惑・失礼・ずるい・下品など

(2) 意識してよいところを探す。多様なよさを子どもにどんどん伝える。

(3) 友達のよい点を子どもに書いてもらう。（教師の気付かないことが出てくる。）

(4) 「褒める」ことを意識するより、「よいところを伝える」という気持ちで。

（文責 山本 哲夫）

「Q-U の分析と活用法」研修会

6月3日（火）、昨年に引き続き、魚沼市教育委員会から早川政宏指導主事を講師にお招きし、「Q-U の分析と活用法」について研修を行いました。

前半は講義で、「WEBQUの目的と活用法」や「特徴」について学びました。

【WEBQUの目的と活用法】

① いじめの早期発見・早期対応

「からかい」「暴力」「不登校」「孤立」「ネットいじめ」「無視」などの項目を選択し、情報を得る。

② 不登校傾向の児童生徒への対応

「いじめ・不登校」項目の「分布図」「リスト」「コメント」から情報を収集する。

③ 学級状態の変化の早期察知と対応

学級が現在どのような状態にあるのか

⇒ 状態の把握、分析 ⇒ 適切な対応策の立案と遂行



【WEBQUの特徴】

① アンケート結果の反映の即時性

② 学級全体の様子と個人の状態とを同時に確認

③ 管理職から見た把握のしやすさ

全体、学年、学級の特徴や変化を見取る ⇒ 迅速なサポート体制づくり

④ 具体的な対応策やアドバイスの提供

学級状態に応じた具体的なアドバイスがもらえる！

後半は仮想の学級のWEBQU結果をもとに、実際に魚沼市で実施している事例検討会を行うことで、理解を深めました。

【事例検討会の流れ】（35分）

- | | |
|------------------------|-------|
| ① 事例検討会の柱の確認(司会) | (1分) |
| ② 説明と質問(担任→参加者) | (12分) |
| ③ アセスメントの確認(全員) | (4分) |
| ④ 対応策の検討(司会・情報提供者も考える) | (17分) |
| ⑤ 事例提供者が取り組むことを発表(担任) | (1分) |

※②に時間をかけすぎず、④に時間をかけることがポイント！



最後に、早川指導主事が「心がけたいこと」として力強くお話しされていたのは、以下の4点です。

- ・「Q-U」は結果が出てからが勝負！
- ・『宝の持ち腐れ』にしない！⇒データの有効活用を
- ・チームで学級づくりを！（一人だけで抱え込まない・悩まない）
- ・私のクラスは「いいクラス？」⇒担任にとって「都合のいいクラス」になっていないか？

受講者からは、「Q-Uの結果を分析し、その結果を学級経営に活用していく具体的な方法を理論と実践を交えて知ることができ、大変貴重な機会となりました」、「『担任が何をするか』だけでなく、『担任をどう助けられるか』、そんな事例検討会になればよいと思います」などの声をいただき、大変充実した研修会となりました。

これまでも各校でQ-Uの結果を分析・検討し、学級経営等に活用してきたことと思いますが、改めてその重要性を感じました。ぜひ各校でWEBQUの結果を有効に活用していただきたいと思います。

（文責：荒井 一人）

★研修講座★

★研修講座★

★学校訪問★



★学校訪問★